



平成 29 年 11 月 30 日
内閣府（防災担当）

国際復興フォーラム2018「～都市のレジリエンスを強化させるための Build Back Better～」の開催について

被災地の復興過程において、次の災害に備えたより強靱な社会を構築する「よりよい復興」の実現を目指して、我が国や関係国連機関等の連携により国際復興支援プラットフォーム（International Recovery Platform：IRP）が、2005年の第2回国連世界防災会議の成果の一つとして、同年に発足しました。

IRPでは、関係機関の協力の下、復興優良事例などの情報提供、地域復興の助言、能力開発などの活動を行っており、この「国際復興フォーラム」も、これらの活動の一環として、発足以来毎年開催しているものです。

今回のフォーラムでは、「都市のレジリエンスを強化させるための Build Back Better」をテーマに、都市における災害復興の経験や実践、政府等公的機関によるガイダンスや先駆的プログラムを共有し、「Build Back Better」がいかにして都市のレジリエンス強化において重要な役割を果たし得るのかの討議を通して、どのような復興活動によって、都市が自然災害の衝撃を緩和し、人命を守り、公的・私的財産の損害や崩壊を抑制することが出来るのかを明らかにして、「Build Back Better」へ向けた成果として世界へ発信します。

- 1 日 時 平成 30(2018)年 1 月 24 日（水） 11 時 00 分～16 時 30 分
- 2 場 所 兵庫県神戸市（ホテルクラウンパレス神戸 5 階「ザ ボールルーム」）
- 3 主 催 内閣府、国際復興支援プラットフォーム（IRP）、兵庫県、
アジア防災センター（ADRC）、国連国際防災戦略事務局（UNISDR）
- 4 参加者 各国政府、地方自治体、IRP 構成機関の関係者 等
- 5 会議概要
 - ・特別講演：「都市のレジリエンスを強化させるために Build Back Better が果たす重要な役割」
 - ・パネルディスカッション 1：「災害からの復興における都市のレジリエンス強化へ向けた経験と課題」
 - ・パネルディスカッション 2：「科学的根拠に基づいた Build Back Better が寄与する都市のレジリエンスの向上」
- 6 取材について

本フォーラムは公開で行います。取材を希望される場合は、事前に IRP 事務局担当者（本件問合せ先参照）に電話又はメールで連絡をお願いします。

なお、当日の取材場所やカメラの位置などは会場担当の指示に従ってください。

<本件問合せ先>

- 現地での取材及びフォーラム内容に関すること
IRP 事務局
担当：塩見、松浦 TEL:078-262-6041 E-mail: irf2018@recoveryplatform.org
- その他全般に関すること
内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付
担当：森脇 TEL 03-3502-6983 FAX 03-3581-7510

国際復興フォーラム

～ 都市のレジリエンスを強化させるための
Build Back Better ～

International Recovery Forum 2018

～ The Importance of Build Back Better
in Urban Resilience ～

日時：2018年1月24日(水) 11:00～16:30

場所：ホテルクラウンパレス神戸 5階「ザ ボールルーム」

Date : 24 January 2018 (Wednesday) 11:00-16:30

Venue : Hotel Crown Palais Kobe, Hyogo, Japan



開催趣旨

国際復興支援プラットフォーム (IRP)は、災害からの「Build Back Better (より良い復興)」を促進するための国際的な協力の枠組として、2005年の第2回国連防災世界会議の成果として日本政府や国連機関等の連携により設立されました。2015年の第3回国連防災世界会議での仙台防災枠組の採択後は、「Build Back Better」に関する経験と教訓を共有するための国際的なメカニズムとしての役割に重点を置いた活動を推進しています。

今回のフォーラムは「都市のレジリエンスを強化させるためのBuild Back Better」をテーマに、次の3つの観点による実例を示しながら、「Build Back Better」がいかにして都市のレジリエンス強化において重要な役割を果たしているのかを特別講演やパネルディスカッションの討議を通じて発信します。

<目的>

1. 都市における経験や先進的取組：長期的なレジリエンスの向上を達成するために、住宅、ビジネス、社会的保護の側面において、地方政府がいかに「Build Back Better」を達成できるのかに関する最新の経験や先進的な取組
2. 革新的ツールやガイダンス：地方政府の多くにまだ知られていない「Build Back Better」やレジリエンス強化に関する革新的なツールやガイダンス（例：リスク情報に対応した土地利用計画や確率的リスク評価手法など）
3. 先駆的プログラムやプロジェクト：(i) 中小企業のレジリエンスの向上、(ii) 都市を対象にしたレジリエンス強化のための復興資金の提供、(iii) ステークホルダー間の効果的なパートナーシップ構築の支援などの「Build Back Better」対策を導入したものを。

主催 / ORGANIZERS

国際復興支援プラットフォーム (IRP)、内閣府、兵庫県、アジア防災センター (ADRC)、国連国際防災戦略事務局 (UNISDR)

International Recovery Platform (IRP), Cabinet Office, the Government of Japan, Hyogo Prefectural Government, Asian Disaster Reduction Center (ADRC), United Nations Office for Disaster Risk Reduction (UNISDR)

BACKGROUND

Urban Resilience refers to the ability of any urban system to withstand and recover quickly from all plausible shocks and stresses, and maintain continuity of functions. Achieving and sustaining urban resilience is essential for cities to continue its role for socioeconomic transformation, wealth generation, prosperity, and development.

However, by the middle of this century, 66% of the world's population will be living in cities. Hence, numerous pressures are expected, especially in terms of wellbeing of urban residents, prosperity, and development. Build back better in recovery is a unique opportunity to strengthen resilience by building on the available recovery funds to integrate resilience into the restoration of physical infrastructure, societal systems, and into the revitalization of livelihoods, economies, and the environment. Against this backdrop, the International Recovery Forum 2018 is organized to offer knowledge, guidance, and examples of specific recovery actions that can help cities/municipalities/governments to develop their resilience and capacity to absorb the impact of hazards, protect and preserve human life, and limit future damage.

OBJECTIVES

The main objective of the Forum 2018 is to demonstrate how build back better contributes to urban resilience. It will specifically showcase the following:

1. Experiences/initiatives on how build back better (e.g., in housing, business, and social protection) help achieve longer-term resilience.
2. Innovative tools/guidance on build back better and resilience that many governments and practitioners are still unaware of (e.g., risk-sensitive land use planning and probabilistic risk assessment tools).
3. Trailblazing programs/projects that introduced build back better measures to: (i) strengthen SME resilience, (ii) ensure resilient recovery financing for cities, and (iii) sustain effective partnerships among stakeholders.



使用言語 / Language

日本語・英語 (日英同時通訳有り)
English and Japanese (with simultaneous
interpretation)

後援 / Supported by

外務省
Ministry of Foreign Affairs (MoFA) of Japan
NHK神戸放送局
NHK Kobe



- 11:00～11:15 開会あいさつ
 ステファン・コーラー IRP運営委員会議長(国連プロジェクト・サービス機関(UNOPS)プログラム部門長)
 内閣府(予定)
 井戸 敏三 兵庫県知事
- 11:15～11:35 特別講演
 「都市のレジリエンスを強化させるためにBuild Back Betterが果たす重要な役割(仮題)」
 (大西 隆 豊橋技術科学大学学長、前日本学術会議会長)
- 11:35～12:45 専門家・有識者によるパネルディスカッション 1
 「災害からの復興における都市のレジリエンス強化へ向けた経験と課題」
- 12:45～12:55 集合写真撮影
- 12:55～13:40 昼食(各自)
- 13:40～16:25 専門家・有識者によるパネルディスカッション 2
 「科学的根拠に基づいたBuild Back Betterが寄与する都市のレジリエンスの向上」
- 16:25～16:30 閉会
 佐谷 説子 IRP運営委員会共同議長(内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(普及啓発・連携担当))

会場：ホテルクラウンパレス神戸 5階「ザ ボールルーム」

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-3-5

Tel 078-362-1155 Fax 078-362-1159

URL: www.crownpalais.jp/kobe/

- ◎ JR「神戸」駅より海側へ徒歩2分
- ◎ 阪急電鉄、阪神電気鉄道、山陽電気鉄道「高速神戸」駅より海側へ徒歩4分
- ◎ 神戸市営地下鉄「大倉山」駅より海側へ徒歩8分
- ◎ 神戸市営地下鉄海岸線「ハーバーランド」駅より海側へ徒歩2分



「国際復興フォーラム2018」申込情報／入力フォーム (申込用Eメールアドレス: irf2018@recoveryplatform.org)

| | |
|-----------------|---------------|
| 所属 (組織名、学校名) | |
| 役職 | |
| フリガナ | |
| お名前 | |
| 住所・電話番号 | 〒 Tel. |
| Eメール | |

※ Eメールに上記申込情報を入力の上、「国際復興フォーラム2018参加希望」と題して専用アドレス宛に送信下さい。
 また、IRPホームページからPDFのチラシをダウンロードして、申込情報を直接PDFファイルへ入力・保存の上、Eメール添付にて申し込むことも可能です。(IRP日本語ホームページ: www.recoveryplatform.org/jp/)

※ 個人情報は、当フォーラム以外には使用いたしません。

